

カナデビア IR Day

機械・インフラ事業本部

2024年12月19日

カナデビア株式会社

主な経歴

島村 真二

Shinji Shimamura

1984年 4月

日立造船情報システム株式会社
(現 株式会社NTTデータエンジニアリングシステムズ) 入社

1989年 9月

当社 電子・制御機器事業部 転籍

2010年 4月

ブイテックス 韓国支店長

2015年 4月

株式会社ブイテックス 取締役社長

2021年 4月

当社執行役員 機械・インフラ事業本部
システム機械ビジネスユニット長

2022年 4月

当社常務執行役員 機械・インフラ事業本部長

2024年 4月

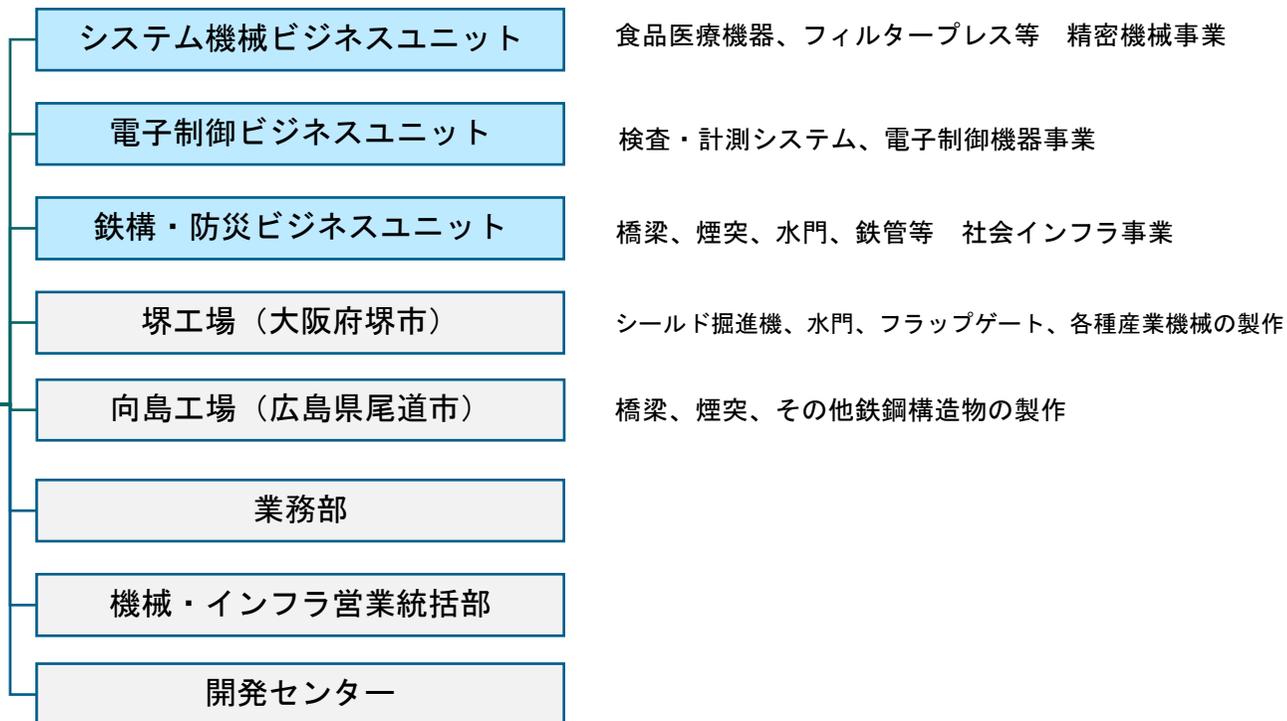
当社専務執行役員 機械・インフラ事業本部長

事業紹介

事業概要 組織



機械・インフラ事業本部



主な関係会社

(国内)

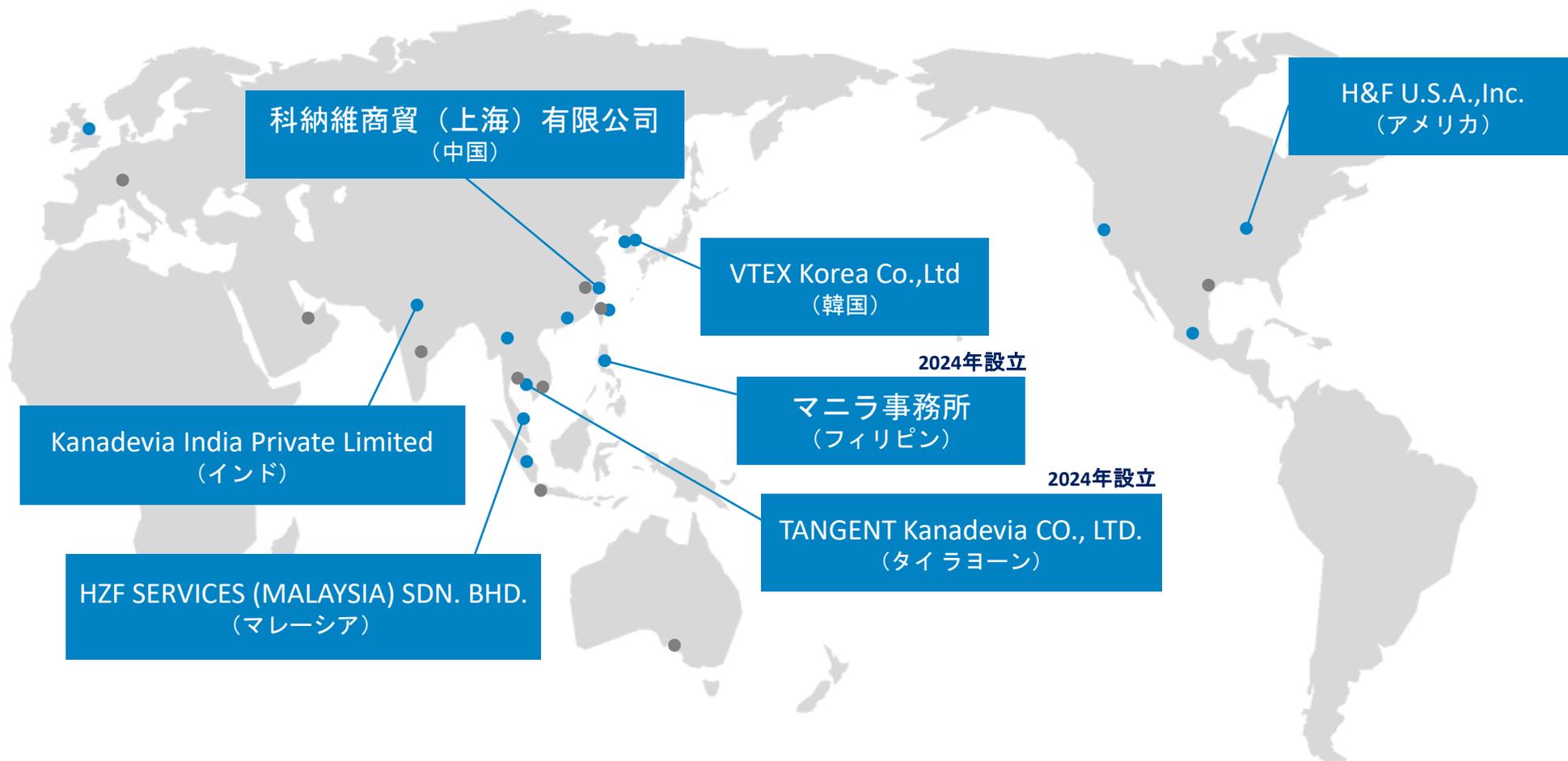
【プレス】 (株)エイチアンドエフ
 【精密】 (株)ブイテックス

(海外)

【インフラ】 TANGENT Kanadevia CO., LTD. (タイ)

事業概要 海外拠点

- 機械・インフラ事業海外拠点及び関連会社
- その他主要海外拠点



事業概要 製品紹介

精密機械事業

Roll to Roll 連続成膜装



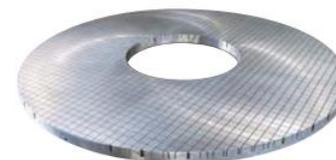
充填機



フィルタープレス



ラッピングプレート



電子基準点 (国土地理院)



インフラ事業

橋梁



水門



フラップゲート海底設置型



エイチアンドエフ

自動車用プレス機械



グイテックス

真空スリットバルブ



本部方針

- ①SDGs、脱炭素社会、サーキュラーエコノミーに貢献する製品開発・事業の推進
- ②安全・安心を提供するソリューションプロバイダー
- ③ICT、AIなどデジタル技術を応用した製品・サービスを 提供し顧客にとってなくてはならない存在となること
- ④事業変革による収益力の改善

既存事業の持続的成長

- A/S事業の促進とリピート製品の伸長
- 水門、フィルタープレス、半導体関連製品を足掛かりとした海外展開
- 標準化によるトラブル低減

成長事業の創出・拡大

- ライフサイエンス関連事業
- 検査・計測・監視及び遠隔支援関連
- アライアンス・M&Aの検討

持続可能な経営の推進

- 人的資本の強化
- DX戦略の推進
- リスク管理の徹底

中期経営計画「Forward 25」業績目標

「Forward 25」業績目標

(単位：億円)

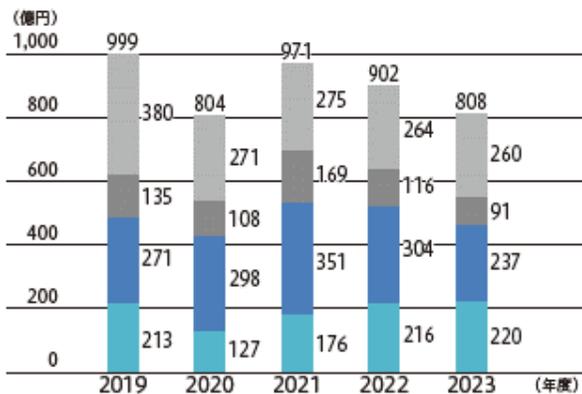
	2023年度 実績	2024年度 見通し	2025年度 目標(※)
受注高	808	840	売上高 950億円
売上高	910	800	
営業利益 (利益率)	30 (3.3%)	9 (1.1%)	

※中計策定時

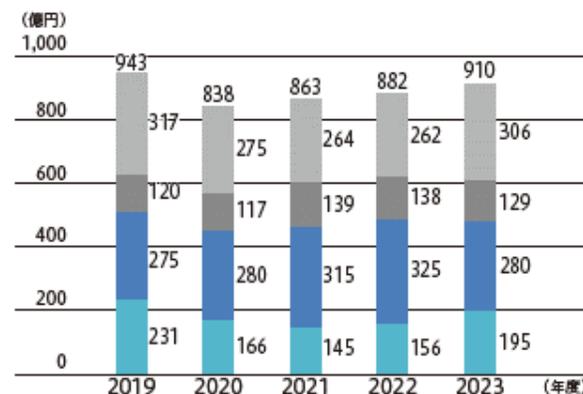
業績推移

■ プレス ■ 精密 ■ その他機械 ■ インフラ ● 営業利益率 (右軸)

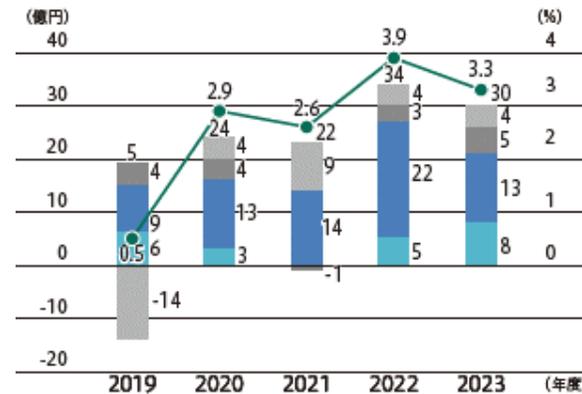
受注高



売上高



営業利益/営業利益率



各事業について

プレス機械事業 事業環境

主なサービス・製品：プレス機械、各種自動化装置、制御装置の製造・販売およびアフターサービス

市場の特徴

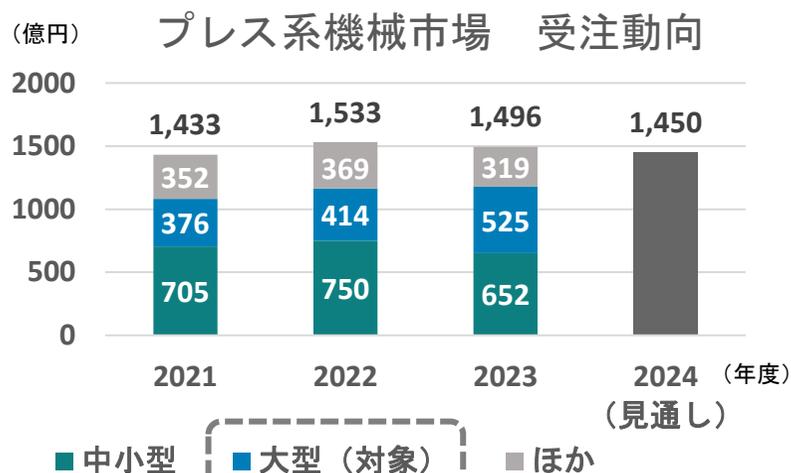
- 主要顧客は自動車関連企業
- 自動車用大型プレス機の需要は、コロナ前の水準に回復
- 国際情勢の不透明感から新規投資に慎重な一方、保守・メンテナンスの需要が伸長
- EV化により車の作り方、ニーズが多様化。軽量化に向けた、材料変化（ハイテンやアルミ）、部品の大型化への対応が求められる。一体成型を目指すギガキャスト技術が出現。

当社の強み

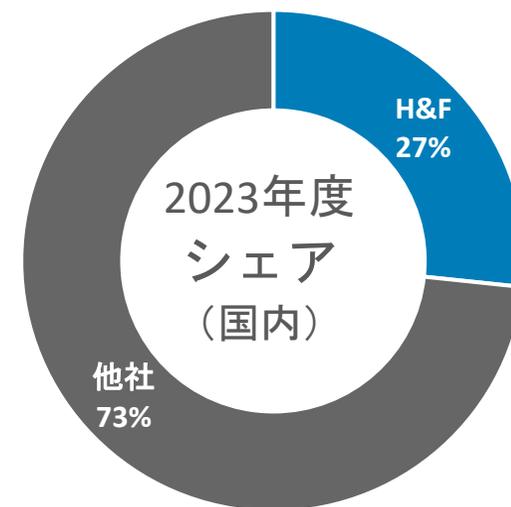
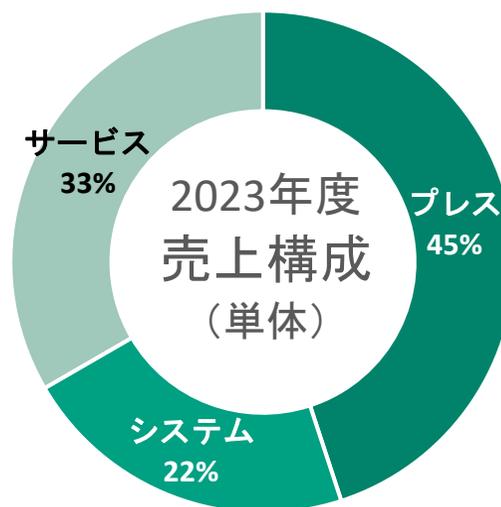
- プレス機械の周辺装置である自動化装置も手掛け、顧客ニーズに適したプレス工場をトータルコーディネート
- 開発から設計、製造およびアフターサービスまで一貫体制
- アフターサービス拠点を国内外各地に配置し、グローバル且つ迅速な顧客サポート体制を構築

競合

- アイダエンジニアリング（神奈川県）
- コマツ産機（石川県）



(出典：日本鍛圧機械工業会)



プレス機械事業 事業戦略

他社と差別化した製品開発

- 電気自動車（EV）に伴う軽量化に向けた新素材（ハイテン、アルミ）、部品大型化、新部品対応の製品開発
※レーザーブラッキングラインはハイテン材にも優位性あり
- カーボンニュートラルに貢献する省エネライン（レーザーブラッキング、サーボプレス）の販売促進
また、既設ラインの省エネ化推進（後付けサーボプレスの構造見直し）
- 省人化、自動化対応製品（FA製品）の開発と機能向上

アフターサービス事業の伸長・強化

- 既納機の追跡し、訪問営業を活発化
- サービス部の人員を強化し、見積処理対応の効率向上
- 連休以外の週末工事を推進し、工事量の消化拡大
- 既設設備の簡易診断（IoTソリューション「HFMAPS」）によるメンテナンス提案
- 既納機の長寿命化、機能アップ、部分更新、修理技術の向上推進

プレス機械事業 取り組み状況

他社との差別化した製品開発

レーザーブランキングライン 概要

[カーボンニュートラル貢献機種]



特徴

- ・ 高出力ファイバレーザを活用した高速カット
- ・ 高加速度Hガントリによる加工時間削減
- ・ Vシフトコンベアによる高稼働率材料搬送
- ・ シングルヘッド採用による品質向上

機能・効果

- ・ 自由形状レイアウトによる材料費削減
- ・ 金型レスによる金型投資/メンテナンス費削減
- ・ 簡易加工データ作成による量産立上げ
- ・ カット断面品質向上によるプレス成形性向上

レーザーブランキング需要件数

2023年度（実績）		2030年度（目標）	取組み状況
受注件数	0	2ライン/年 ※年間生産可能台数	・ 2024年5月、熊坂工場にテスト機を設置し、改良機を開発中 ・ 顧客ニーズの変化により、レーザーによるブランク材切断が注目されている
納入累積件数	3ライン		

プレス機械事業 取り組み状況

アフターサービス事業の伸長・強化（時代の要求に向けた循環経済への貢献、収益力向上）

HFMAPS 概要

特徴

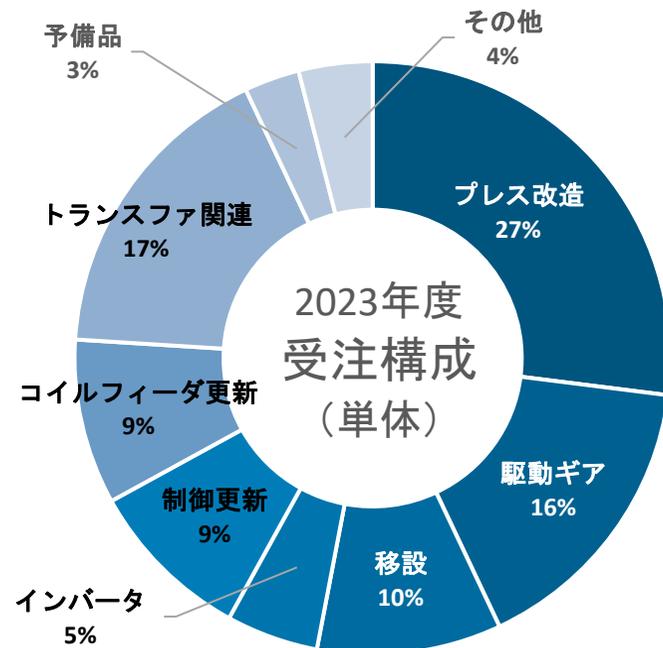
- ・ IoTソリューションを活用
- ・ 当社既設製品への後付けも容易
- ・ プレス機の稼働状況を遠隔監視

機能・作用

- ・ 設備の稼働分析
- ・ 予防保全
- ・ 復旧支援
- ・ 品質維持支援



アフターサービス受注構成



(億円)

売上全体に占めるアフターサービス事業

(対外公表値)

売上高	2023年度（実績）	2024年度（見通し）	将来目標
HFグループ	198	202	250～
A/S割合	40%	40%	50%

精密事業（半導体関連） 事業環境

主なサービス・製品： ①真空バルブ②ラプチャーディスク(RD)

市場の特徴

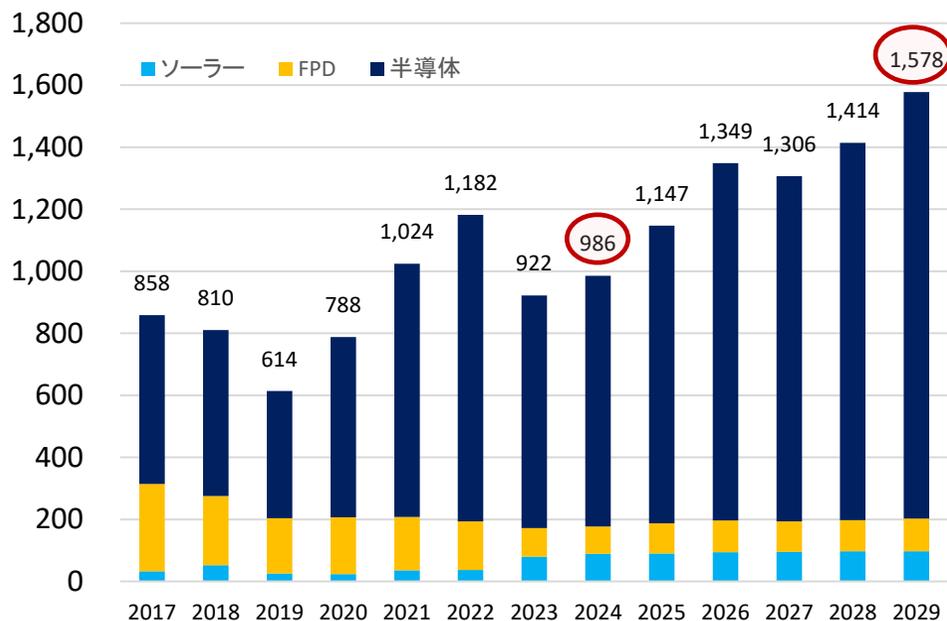
真空バルブは主に半導体製造装置に使用され、今後も市場は拡大する見込み。(①)
2029年売上高は2024年比160%増の予測で、半導体市場伸長に向け、各社生産キャパを拡大し今後の需要増に備える。(①)

当社の強み

高品質、高い耐久性、多数の納品実績 (①,②)
顧客の要望に合わせたカスタマイズ対応 (①,②)
真空スリットバルブでは売上高シェア2位を確保し、半導体製造装置メーカーとの強固な関係を構築 (①)

- 市場規模（発注量の推移、将来見通しなど）

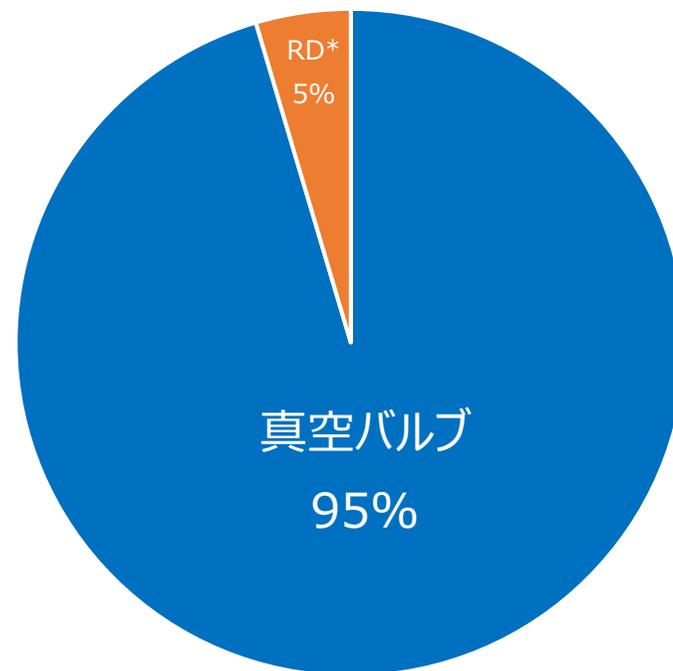
(\$M) 真空バルブ産業別売上高予測



TI Critical Subsystem forecast – September 26, 2024よりVTEX作成

- 当社の売上高構成比

2023年度売上高構成比

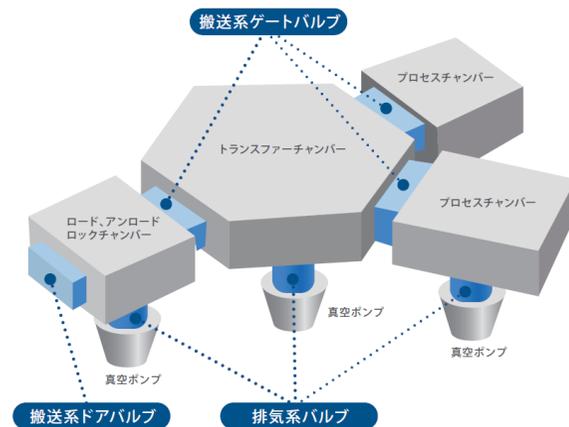


*RDはラプチャーディスクの略

精密事業（半導体関連） 事業戦略

<真空バルブ>

- ① 生産キャパシティと生産効率の向上
- ② 顧客新製品プラットフォームに適合する真空バルブの開発



<ラプチャーディスク>

- ・生産キャパシティと生産効率の向上



生産キャパシティの拡大

VTEX韓国 (VKC)

2024年度
最大生産能力
1,600台/月



東海工場

2024年度
最大生産能力
2,400台/月



VTEX蘇州 (VST)

2024年度
最大生産能力
100台/月



東舞鶴工場

2024年度
最大生産能力
400台/月



生産能力増強目標（2030年度）

国内：東舞鶴工場の増強により、2024年比で最大生産能力を約**1.6倍**に拡大
海外：VKC、VSTの増強により、2024年比で最大生産能力を約**1.3倍**に拡大

精密事業（半導体関連） 取り組み状況

<顧客新製品プラットフォームに適應する真空バルブの開発>

線幅

3nm

電動True-Lモーション ゲートバルブ

微細化やIoTに應えるために開発されたバルブ

低振動

低パーティクル

シール材の最適化など

5nm

True-Lモーション ゲートバルブ

弁体の軌跡を「L」に変更したLモーションバルブ

低振動

低パーティクル

シール材の捻転防止など

7nm

10/14nm

ロールカム ゲートバルブ

従来型のバルブ

豊富な使用実績など

20/28nm

微細化



2000

2016

2017

2018

2020

2022

2024-

年

インフラ事業 事業環境

主なサービス・製品：水門、橋梁、海洋等鋼製構造物、鋼製煙突

市場の特徴

【水門】ダム再開発やメンテナンス工事が増加
 激甚化する災害による防災・減災予算の増加
 東南アジアを中心に治水・発電向け需要が旺盛
 【橋梁】新設は横ばい、老朽化対策の保全(修繕)・更新が伸長
 【海洋】港湾機能向上と防衛力強化による需要増
 【煙突】延命化に向けた補修・耐震補強の引合いが増加

当社の強み

【水門】ダム再開発向け仮締切設備・フラップゲートの独自技術
 モニタリング等のICT活用の拠点を保有(A.I/TEC)
 タイに海外製作工場を保有(TANGENT Kanadevia)
 【橋梁】長大橋施工技術、耐震補強、3次元モデリング技術
 【海洋】大型海洋構造物向けドックを保有(堺工場)
 【煙突】高層煙突の新設及び耐震補強の豊富な施工実績

	市場規模	当社シェア	競合	備考
水門	600～800億円以上	10～15%	IHK、豊国等大手6社 中小メーカー多数	2030年までには市場規模は1,000億円に伸長の見込み
橋梁	3,000～4,000億円	3～5%	横河、IIS、JFEなど20社 保全更新は10社程度	新設から保全・更新重視にシフト
海洋	100～200億円	20～30%	JFE、MMB、三井、 日鉄	大型ドック保有は当社とJFEのみ 防衛予算増加に応じて各社対応強化
煙突	50～100億円	30～50%	三菱重工機械	高層煙突は当社と三菱のみ施工可能 CNの流れによる代替燃料の新設案件増加傾向

インフラ事業 事業戦略

水門 【課題】 受注拡大と事業領域の拡大

【戦略】 ダム再開発や水力発電リニューアルによる需要増加への対応
東南アジア案件へのTANGENT Kanadeviaの活用
状態監視診断システム(診衛門)などICT技術の活用によるインフラ点検・診断事業の推進

橋梁 【課題】 大規模修繕・保全・更新工事への対応強化

【戦略】 高速道路会社を中心とした案件の受注拡大と収益力強化
ICTを活用した「点検・診断・施工」の一括発注の提案と事業化推進

海洋 【課題】 営業領域の拡大による受注機会の増加

【戦略】 海洋ドック保有という強みを生かした選別受注による収益向上
独自技術である鋼板セルやGPS波浪計の確実な受注と収益確保

煙突 【課題】 脱炭素化の流れに応じた新設・補修・耐震補強への対応

【戦略】 既設煙突を中心とした補修・延命化や耐震補強、遠隔監視や劣化診断の提案推進
代替燃料(LNG、アンモニア)に変換された施設への対応

インフラ事業（水門・橋梁） 取り組み状況

独自技術を生かしたダムの更新需要や災害対策への対応 / 東南アジアでの製造拠点設立

ダム再開発仮締切設備

- 運用中のダムで放流設備増設工事を施工するための当社開発技術。



海外製作工場の開設

会社概要

会社名 : TANGENT Kanadevia
従業員 : 90名
事業内容 : 水門・鋼構造物の製作、機械類のメンテナンス

- 東南アジアの治水事業・水力発電事業の増加とそれに伴う水門需要に対応
- 現在、国内電力向け水門設備等を製作中。今後はフィリピン向け水門を製作予定。
- 将来的には、東南アジアにおけるものづくり及びエンジニアリングの拠点として、設計・製作・据付までの一貫した元受け施工体制の確立を目指す。

フラップゲート

- 海底設置型は岩手県と兵庫県で2基納入
- 陸上設置型は東北地方太平洋側を中心に200基以上納入



海底設置型(岩手県)



陸上設置型(徳島県)



工場外観



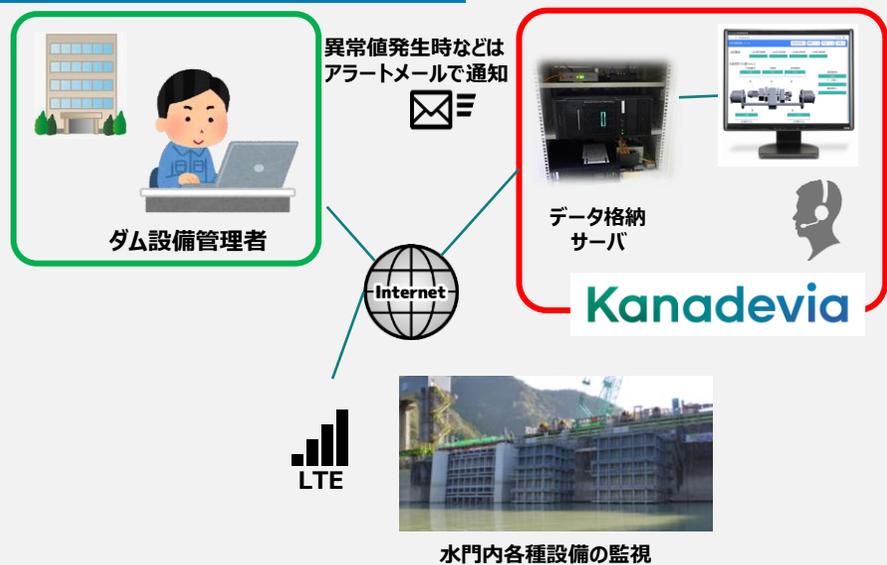
事業拡大のイメージ

インフラ事業 取り組み状況

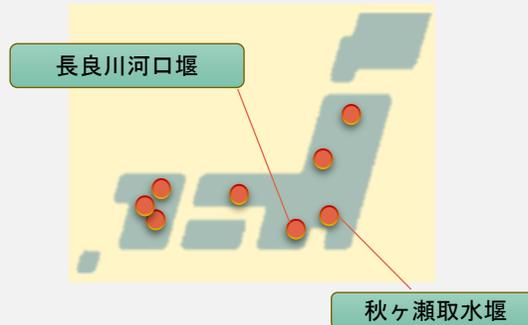
DXを取り入れた社会インフラ設備のICT技術を生かしたメンテナンス対応

遠隔による設備の状態監視・データ分析により劣化診断およびメンテナンス提案を推進

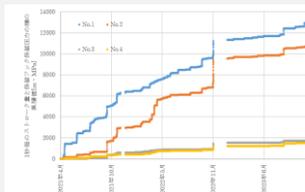
水門状態監視システム“診衛門”



長良川河口堰、秋ヶ瀬取水堰ほか
全国計8か所で稼働中

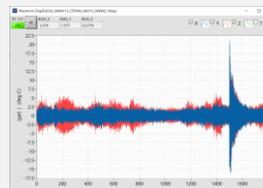


海底フラップゲート



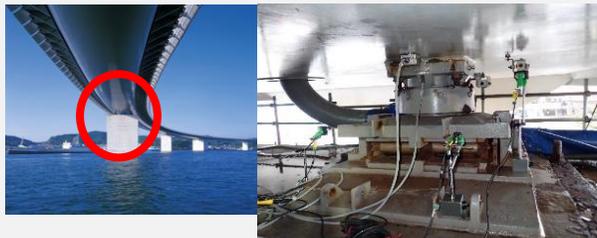
ブッシュ摩耗量計測

煙突

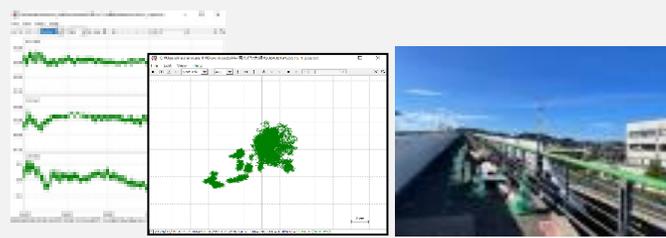


振動解析

橋梁

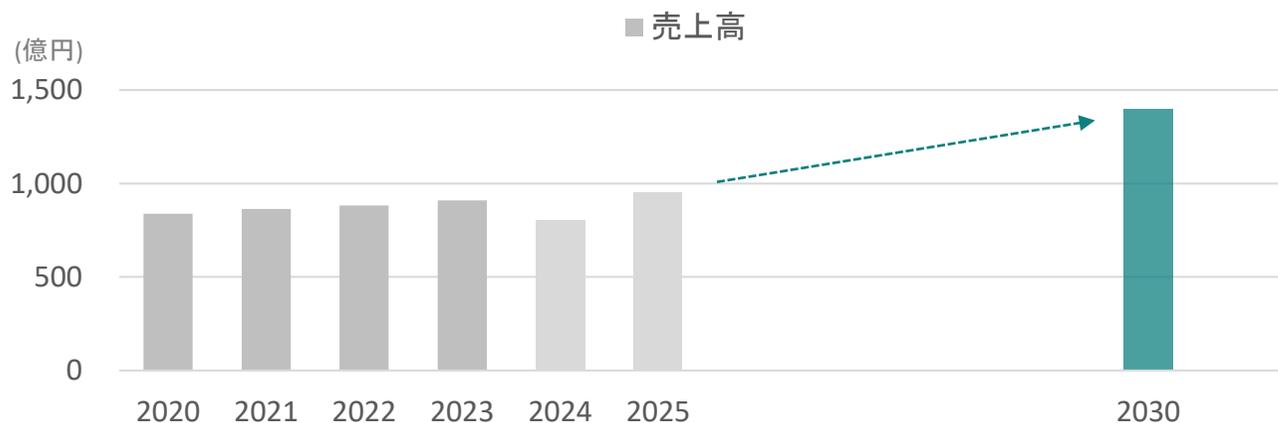


支承部・橋脚変位計測



GNSS測器による連続変位計測

成長イメージ



	Forward 25 (2023年度～2025年度)	2030 Vision (～2030年度)
プレス機械事業	<ul style="list-style-type: none"> アフターサービス事業の伸長による収益力強化 	<ul style="list-style-type: none"> EV化や脱炭素化需要に対応した製品の開発・拡販
精密事業 (半導体関連)	<ul style="list-style-type: none"> 顧客新製品プラットフォームに適應する真空バルブの開発 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の需要増加を見据えた国内外の生産設備の増強
インフラ事業	<ul style="list-style-type: none"> 東南アジアでの水門需要増加を見据えた製造拠点 (TANGENT Kanadevia) の設立 橋梁の大規模修繕・保全・更新工事への対応強化 	<ul style="list-style-type: none"> TANGENT Kanadeviaの設計・製作・据付までの一貫した元受け施工体制の確立 ICT技術を活かした各種インフラ設備のメンテナンス対応



(将来に関する記述等についてのご注意)
本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる結果となる可能性があります。